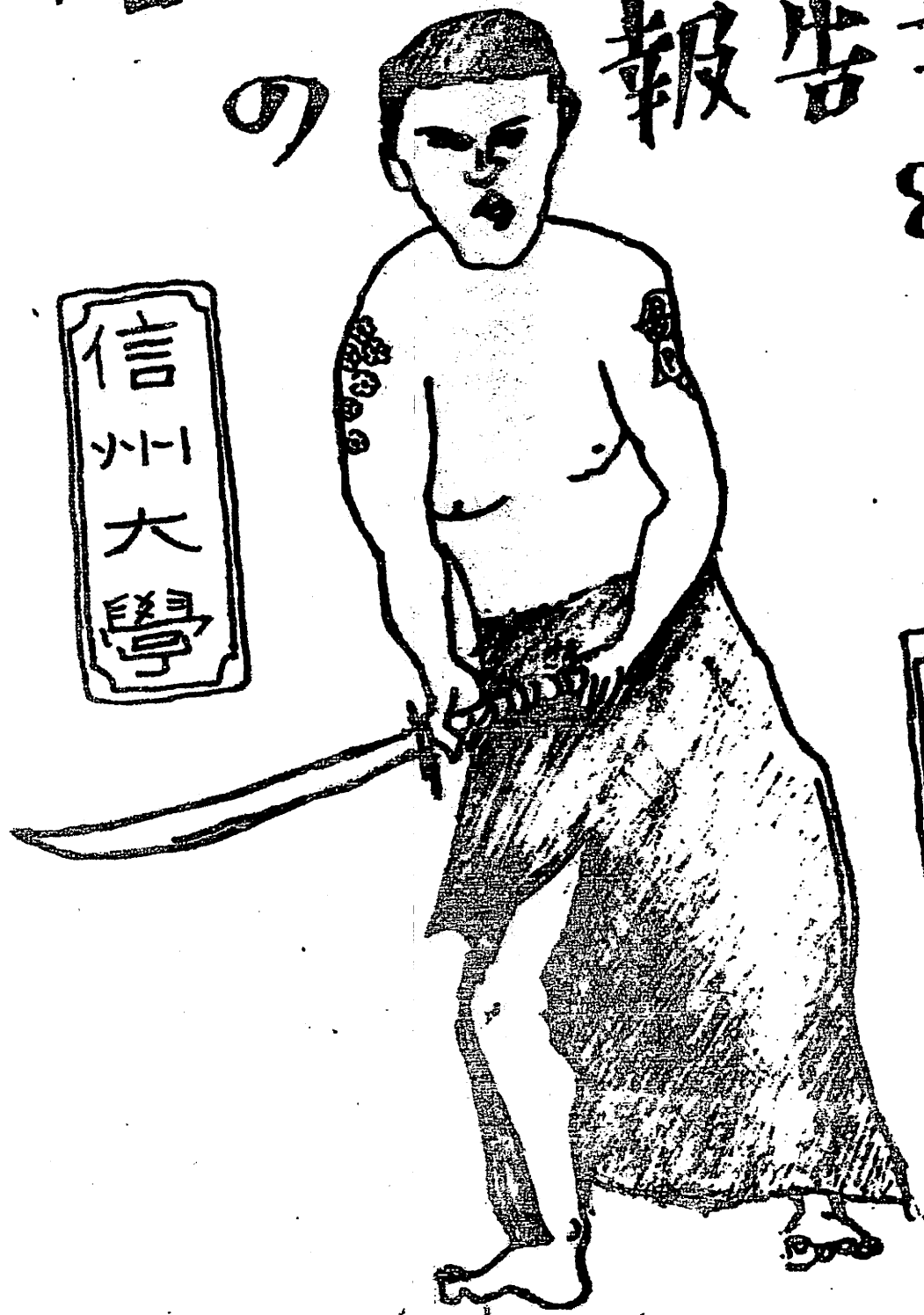


春山・G.W.山行
の報告書
89'



信州大學

山嶽會

健

作文 文責 小野孝博

信州の長い冬が終って春が来た。
静寂に生きた僕には冬は
あんなにも長かった。

しかし春は来たけれど僕の心は
まだ「冬だ」。

路面は凍結している。

遠くから諸業無常の鐘の音が聞
こえてくる。



こころ

ネパール。

ナマステ ナマステ。 ナーマステイ と歌いまくる子
供を国たつた。 山はでかいし 降り雪の粒が
でかい。 なんといつても毎朝、エバリストを見ながら
お祈りの中に 4日も沈殿してしまふよう
とほくしい所だから。 もう1回ぐるり行こーと

ナマステ

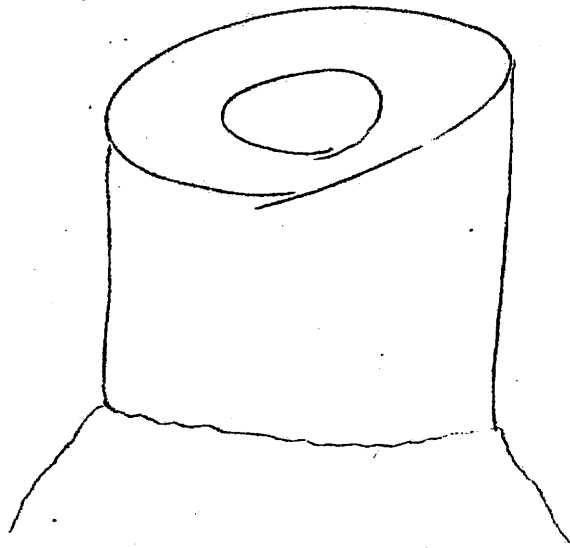
目次

- 仙女岳 P.2
- 八ヶ岳 P.3~4
- 八ヶ岳 阿弥陀南稜 P.4~5
- 八ヶ岳合宿 P.5~8
- 南ア縦走 P.8
- 箴~鹿島槍 P.9
- 蝶~燕 P.9~10
- 早月尾根 P.10~11
- 火打山スキーツアー P.11
- 鹿島槍 東尾根 P.12
- 鹿島槍 天狗尾根 P.12~13
- G.W合宿 P.13~27

仙丈岳
 小久保
 1/20 10:00 浦山 戸台 1/20 ~ 1/22 服部 松下
 12:30 丹溪山荘
 14:50 北沢峠 T.S.

1/21 6:40 T.S 発
 10:50 ヒック
 12:45 T.S 着
 13:40 北沢峠 発
 16:50 戸台

2400mより下へ



by 北川

八ヶ岳

豊田・内田・牧野・長谷川・河西

1月20日

- 13:30 美濃戸
- 14:30 美濃戸山荘
- 17:45 " 麓
- 18:00 北沢を300米ほど登ったところでT.S設置

この日のかんき " ああ かの幸徳は遠くへ過ぎ去り " マキストーアは夢の子に夢 ㊦

1月21日

- ◎ 6:10 T.S麓
- ◎ 8:30 行者小屋 BC設置
- ◎/① 9:45 BC麓
- ①/ガス 11:25 赤岳頂上
天気があまりよくないので赤岳西壁を止め縦走とする
- ① 12:45 行者小屋
中山乗越から横岳西壁を観察
- ① 13:10 行者小屋 BC

1月22日 阿弥陀岳北稜

豊田・河西・長谷川

- 7:00 BC ①) ラッセル有り。ワカ=王体うへき。
- 7:55 シャンクションピーク ○
- 8:25 オ2岩後 ○
- 8:40 登山開始 ○) ZP 25 コ=7
- 10:40 阿弥陀岳 ○
- 11:10
- 11:25 中岳、コル ○ 交信待々
- 12:10) 中岳末を34セ-ト
- 12:30 BC ○ 下山開始
- 14:20
- 16:20 美濃戸 ①

3

1/22 横岳石尊稜 △内田・牧野

7:00 B, C

8:50 取り付き

12:00 10終了 けんすいでお帰る

13:00 P, C

無風快晴

当然のことだけれど、雪と氷がいろいろあって、こわくてのぼれませんでした。
(牧野)

ハケ岳・阿弥陀南稜 △豊田・河西

2/15 〇7:07 学林で下車。バス停から南東にのびる道を行く。路面は凍っているが積雪ほとんどなくスニーカーでも歩ける。

〇9:45 御小屋尾根 2000米付近から南西にのびる尾根の1820米地裏のガレ。コースをまちがえたのでカラマツ林の中を広河原沢へ下る。

〇10:10 広河原沢
広河原沢オニ堰堤上部より御小屋北面の1800米コルへ直登

〇10:50 御小屋北面1800米のコル

〇11:30 立場岳。立場岳への登りは西側から行く。立場岳頂上には雪洞くらいはいる。

〇12:00 無名峰 (2500m)。立場岳から降りて広河原沢側に切れおちている所がある。トレスが伸びている。雪洞は倒れてしまっている。(完成) 4

2/11 朝又、強風、9:10の天気図を見る。

10:55 S.H.路、稜線上の木々にエビのシッポが飛渡
無名峰～五峰間は難い所はない、五峰は広河
原沢側をヨリは簡単に通過できる、立場側は雪庇。

11:20 五峰直下、風強くなり雪ヨリになる、コンテで広河
原沢側をヨリ 若太郎2人がルンゼを登る。

11:50 下山決定

12:15 無名峰、五峰のヤマ上部から両側にのびていく尾根
があるがこれに入りないう下山時には注意

● 14:05 旭小屋

● 15:50 原村ペンションバス停

天気はわるく核心が全く登れず残念だった。15日がドラ
晴れで天気図もとれなかつたので16日にいそがし天気はくす
めたのが意外だった。しかし15日に面の空にレンズ雲がみられ
た。これが天候悪化の予兆しかもしれない。

今回も雨に降られおたがバス停のそばのペンションでストーブ
においでしてもらっても暖かいと思いません。ハク岳に「雨」と「ストーブ」は
フサもののようです。アプローチは絶対にタラシを扱うべきです
林道がアミの目のように走り、1:25000と現状は全く違っています。

(記、河面)

ハク岳合宿

山下平 三野 飛田 服部 牧野 松下 小野
植垣 長谷川 兼岩 加藤

2/11 8:20 栗澤平 ⑤
9:15 栗澤平
11:05 新着小屋 3.0

感想 栗澤平の景色をみる。た。
記入 小野

2/25 全員

- ⊗ 6:25 B.C 港
- ⊗ 7:30 文三郎尾根 2570m
悪天と雪崩の危険のため下山降
- ⊗ 8:00 B.C
- ⊗ 8:25 中山峠 ・雪訓
- ⊗ 10:00 *スノーシュー・アックス・V・コンテ(大阪方式)
- ⊗ 10:15 B.C

確保ができなくては登攀はできない。
雪上での確保技術を確実にしたい。(兼岩)

2/26 A~Dパーティ

- 6:30 ⊗ 待機
- 9:00 ⊙ B.C 港
- 10:00 ⊗ 文三郎と南峰リッジの分岐
風強く、パーティごと11
"エルトに入る。
- 10:50 ⊗ 港
- 11:30 ⊗ B.C

登れなくて残念。 記 植垣

2/27 Aパーティ La 下平 服部 小野(4) 南峰リッジ中央縦

- 6:30 TS 港 〇
- 7:35 コラ開始 〇
- 8:35 中央縦登攀開始 〇
- 7:5P

- 11:40 終了 〇
- 12:00 赤糸頂上小屋 〇
- 14:45 港 〇
- 15:15 TS 港 〇

※ 2/27 日記、しんじゆん日記
母日記

2月27 赤岳南峰 リッジ 中央稜
B.P. - 三野 塩垣 長谷川

6:30 B.C. O
7:40 取付き O
8:35 登ハ = 開始 O
11:30 登ハ = 終了 赤岳南峰 O) 5P
11:50 頂上小屋 O 他パーティー 2待
14:30
16:30 B.C. O

27日 Cパーティー 南方リッジ左稜
L 飛田 兼岩 加藤

① 6:25 B.C.
① 8:30 取付き 8:00
① 14:05 終了
① 14:30 頂上小屋
① 16:30 B.C.

：初めの雪稜であったが、もっと岩のあるところかと思った。
記 加藤

~~26~~
27 D.P. - 牧野 松下 赤岳南峰、リッジ左

B.C. — 取付き — 南峰 — 頂上小屋発 — B.C.
6:35 8:00 10:50 14:30 16:30

コ = テ交じえ2ド = 登、2た、頂上に出、...

2月28日 BC — 美濃戸口

7:50 BC ○
8:50 美濃戸山荘 ○
9:45 美濃戸口 ○

南アルプス縦走 (塩見～北岳)

山 安田、小野、蒲山、山田、河西

3月1日

伊那大島の駅からTAXIで鹿塩へ入山

- 11:10 1100米付近でTAXI下車
黙々と歩き出す。
- 11:50 塩川小屋
雨が強いのでここで泊とする。15:30に雨止む

3月2日

- 5:35 塩川小屋発
- ↓ 7:00ころ尾根の末端、道が凍結していて
歩かずら…アイゼン使用
- 12:00 三伏峠
- 13:40 本谷山
- 15:00 2512米付近にT.S設置

三伏から塩見に行くには夏道よりも枝線をとった方が良さそうです。

16:00の天気図をとり明日以後天候が悪化しそうなので北岳までの縦走を断念。

3月3日

- ◎ 6:40 TS発
- ◎ 7:25 本谷山
- ① 8:45 三伏峠
- ① 14:00 鹿塩バス停

3月3日は「いつわりの晴天」4日から山は荒れた

NAMU-AMIDABUTSU

爺ヶ岳 ~ 鹿島槍 L 飛田 牧野 加藤

- 3/3 ① 6:55 鹿島部落
- ② 10:20 東尾根 1978m 地点
- ③ 13:30 J-P の T-S

- 4日 ④ 7:05 T-S
- ⑤ 7:55 爺ヶ岳
- ⑥ 9:50 冷地山荘

- 5日 ⑦ 6:30 T-S
- ⑧ 8:25 鹿島槍南方
- ⑨ 9:45 冷地山荘
- ⑩ 14:10 高千穂平
- ⑪ 18:45 鹿島槍 ガーテン

東尾根 から見る鹿島槍はきれいであった。

記 加藤

蝶 - 常念 - 燕

L. 下平 服部 松下 埴垣 小野の 長谷川

3月4日 徳米 - 徳米

- 7:15 沢渡 ①
- 13:00 徳米 T-S ②

3月3日 徳米 - 蝶ヶ岳 ヒコウ

- 7:00 徳米 ①
- 12:30 長場山 ②
- 15:25 蝶ヶ岳 ヒコウ ③ 冬期小屋にヒコウ 無料

長場尾根は法く樹立帯 - ルートがニテンクが困難

9

3月6日 磯ヶ岳ヒコリ - 常念小屋

7:15 冬期小屋 ○

11:35 常念岳 ①
11:45

12:10 常念小屋 ① 冬期小屋にヒコリ

3月7日 常念小屋 - 燕山荘

7:00 冬期小屋 ①

9:00 大入井 ④ 燕山荘の道には下川の谷川あり

10:30 大入井 ④ 大入井の下には少し雪

14:40 燕山荘 ④ 冬期小屋にヒコリ

3月8日 燕山荘 - 中菁温泉

7:15 冬期小屋 ④

7:35 燕岳 ④
8:05

8:30 冬期小屋 ④) 雪靴履は樹木帯にヒコリは困難
8:30

11:15 中菁温泉 ④ 中菁温泉... ヒコリは多量

今日の山行は、雪が多くなりヒコリは下川の谷川で楽しかった。

早月尾根 3/13 ~ 3/15

1. 安田, 飛田, 服部, 松下

3/13 12:00 剣書少年研修センター 五ヶ所 ④

15:15 松尾平 1050m 付近 TS ④

3/14 6:20 TS 飛 ④

10:50 常念小屋 TS ④

3/15	6:30	TS 発	①	※ 3日目は殆どしど位
	10:15	2700m 付近	①	までのラッセルで時間を
	11:50	TS 着	①	食、しまい天候悪化の
	12:40	.. 発	⊗	きどしがあり登山がた
	16:00	馬場島	◎	残念

火打山スキーツアー

↳ 中村(幸), 山田, 宇野(伊那ワン4年)

3/29 10:00 ① 妙高国際スキー場リフト終点 (1500m)
以降シール歩行

13:30 ① 2300m (外輪山稜線に出る。)

16:20 ◎ 高谷池ヒュッテ (C1)

リフト終点からは 1850 地奥方向に赤旗と見分ちから進む。

1950m 付近で沢とトバースしそのまま直上するが、傾斜が有り

降雪後はツラレの心配がある。外輪山の稜線は右側

雪底に要注意。ここは運悪く吹雪に耐。目もあけがな

い程だった。三田原山を越えてから黒沢池へ沢沿いに

下る。茶臼山へは直登もできるが、右側の尾根沿いの方

が安全だ。茶臼からは、下り過ぎを十分にトバース

して高谷池ヒュッテへ。冬季小屋があり、ふとんまで十分にある

3/30 7:30 ○ 出発

8:45 ○ 火打山頂 (頂上までシールを付けて歩く。)

9:50 ○ 高谷池 (10:30 発)

12:25 ○ 外輪山稜線 (2300m, 三田原山手前)

13:30 ○ 2300m ヒール (ここから滑降)

15:30 ○ スキー場

火打まで雪底も厚く傾斜も緩いが山頂直下がクラスト

に登りにくい。高谷池以降の下山は三田原過ぎの2300


m ヒールまでは往復と有り。そこから池ノ山峰をめぐり滑

る。悪天候のルートファインディングがまじっていた。(山田)

||

鹿島櫓東尾根

3/13 ~ 15. L. 下平, 浦山, 牧野, 山田, 三野

3/13. 9:00 鹿島部落. (大谷原分岐) 
12:30 一の沢頭付近 2030Mのヒコ-7 (T.S).

3/14. 9:15 T.S 発
11:30 2230M付近 (T.S).

・視界が悪く雪庇のキョ-7におびえつつコンテ(天険方式)で登る.

3/15 6:50 T.S 発 <1ヶ所Fix>
8:25 第1岩峰直下

9:00 敗退決定 (雪崩と下平さんへの荷が流れぬため)
15:30 鹿島部落.

・前日の降雪, と今日のドピーカン. 嫌な予感の中, 下平さんは僕の視界から消え, マックは大雪氷の窟へ, ファンファン

鹿島櫓天狗尾根

L. 下平 服部 小野 河西

3/30 7:15 ① 大谷原
8:30 荒沢出合
12:30 2010m付近
3:20 ① 天狗の鼻の雪洞

荒沢は2回河を渡る。尾根への取り付きにはマーキングは無いが、カシ登れば赤旗がある。才1, 才2のリアルは長大の雪壁だが雪がくっついて、新雪が降った後、3才が1才。丙才と乙リアルIP 50mをFix1を通過する。天狗の鼻を「おぼろ」といい雪洞があったのでおぼろを使う。

3/31 6:15 ④ B.S
 7:30 小倉岩
 10:35 ④ 鹿島橋北端
 12:40 冷池小屋

天狗の鼻から上の山筋は、右側にも左側にも雪庇があり複雑だ。
 小倉岩上部の岩場で35mギザルを出す。四角ギザルに登る。さらに
 上部の岩場で15mギザルを使う。直登するがやや難しい。雪の状
 態が良ければ右側が登れるかもしれない。荒木の頭から北
 峰まではナイフのギザルが、頂が強く、ホワイアが、音、
 有。さらに横糸線に出たから冷池小屋まで、強風にたたかれた。

4/1 6:50 ① 冷池小屋
 7:15 赤岩尾根への分岐
 10:00 赤岩尾根 末端
 11:00 ① 大谷原

赤岩尾根の分岐から少し下った雪壁で100mのFIX。表層雪崩が出
 ていた。アイゼンがタンゴになるが、はすすとお入る。雪
 で苦労する。大谷原に置いた車は、スタックはくして、気分はバ
 ン。車道入射の水溜りにはかかっていた。

(小野)

ゴールデンウィーク合宿 4/30~5/4
 山下平 内田 小久保 服部 松下 浦山
 牧野 植垣 山田 河西 小野 加藤
 長谷川 兼岩 (中村 豊田 5/2 入山)

4/30 9:35 鬼平 ①
 10:15 薬大小屋 ①
 11:00 リフト 終点
 14:40 丸山ケルン B.C. ①

感想 八方尾根はとても広いのでホワイ
 アウトしていたら迷い易いと思う。
 記入 小野

5/1. 5:00 B.C. ①
雪訓
9:00 B.C. ②

感想 何と云う時のために雪訓はし
かりかりたい。

記入 小野

5/2 本隊

5:20 ○ 出発

5:50 ○ 唐松天本谷のコル

7:00 ○ 三峰過ゴ. ロバーク通地

この後 三峰西側斜面で雪訓(グリセード)

9:40 ○ 雪訓終了

10:20 ○ 八方尾根 2600m 付近

この後 南側斜面で雪訓(ピッケルステップ)

12:40 ○ B.C 着

五月晴れのもとでの雪訓は気持ち良かった。

(山田)

5/2 登攀隊 L下平, 服部, 不帰3峰(尾根)

5:15 TS 発

7:35 C尾根取り分け

第一岩壁に服部登れず P2 I部が取りつくことにす

11:50 取り分け

7 6P

14:48 終了

15:40 BC 着

* ハーケンが抜けたら、雪崩にあたりえんてんだった。

トレースのサハ雪履は面白い。

1 峰尾根

11/5/3 豊田 小久保

6:50 ○ 唐松谷側取りつきにせ下部

7:50 ○ 1 峰尾根取りつき (P1のユル)

12:30 ⊗ 核心部

16:30 ⊗ シンクシロウ下部 B.P.

核心以外はコートを交えて、それほど

難かしくない。核心の人工の支点は

ボロく自分で作った ラダーのピンもボロい

5/4. 6:20 ○ B.P 麓

8:30 ○ 1 峰直下

10:00 ○ 終冬 (最後のIPは急なヤブコギ)

13:00 ○ 唐松谷

13:40 ○ B.C

最後の13:40以外はほとんどコート

また、不帰の嶮のあたりはガイルを出す

必要がある場合もある。

尾根の夜

加藤

その夜尾根は寒かった。外は晴れているが、ツェルトをかぶっているのではよくわからない。そのツェルトから水滴が落ち頭をぬらす。敷物は雪の上にザック1つ、背中は岩である。テントが、シュラフがとて寒い。かすかにとえるロウソクの灯が体をあたためる。何もすることかなく、また身動きがでないというはとてつまらぬ。1秒、1秒が長く感じられる。3時間おきに湯をおかす。ぬるい湯と砕けたビスケット、そして湯をおかすたびに服部さんのペン食が3分の1に分けられ配給された。1時を過ぎるところから脚がしびれてきた。傷みを忘れるために寝ようと努める。1時間ほどウトウトして寒さと傷みで目が覚める。そしてまた寝る。このくり返しである。ふと目を覚まして3時だった。最後のお湯をおかし、サラミをかじると4時近くになった。外も明るくなったようだ。立ち上がり、半日ぶりに体を伸す。外は快晴だ。さあテントへ行こう。あたたかいシュラフをかぶっている。

5/3 C party L内田.小野.河西

① 5:10 BC 麓

① 5:40 本谷コル

① 7:05 B尾根取付

↓ 2p.

⊗ 10:30 下降決定

⊗ 12:00 1p目の取付

⊗ 13:00 唐松沢をつめ 本谷コル
兼山 唐松沢. 白土 風雪強く行動困難
のため 唐松岳と並峰間でツェルトをかぶり停洋

⊗ 15:10 C尾根隊と合流

⊗ 17:50 BC

(河西)

5/3 F パーティ - L 浦山. 牧野. 兼岩
不帰三峰 C 尾根上部

⊙ 5:10 B.C

⊙ 5:40 唐松沢本谷のコル

⊙ 7:05 P2 上部のコル

⊙ 7:30 開始
?) 5P 問題なし

⊙ 10:30 終了

⊙ 10:55 集合場所 (A尾根と南峰のコル)

⊗ 14:40 Eパーティと出発 ↑ 吹雪と雷

⊗ 17:00 唐松小屋 ↑ ↓ Cパーティ合流

⊗ 17:50 B.C ↓ 丸回復

登攀は問題なかったが、ホワレ・アトと雷のなか
を歩いたのは、きつかった。冬山での総合力
があのような場面であると思う。(兼岩)

5月3日

不帰山峰B尾根 DII-カ
Member L 服部, 松下, 加藤

5:15 B.C 麓

7:00 取付き開始

1P 登ってからルートが混雑している
ためCルンゼをぬけて登りなす

6P (午後から雪と曇)

16:30

抜けれると思っていたが、
ガスがひどく、雪質も悪い
のでエスケープできずにビヴァーク決定。
寒い寒い夜を3人で過ごす。

5月4日

4:30

ビヴァーク地点 麓

Cルンゼをつぬく

5:00

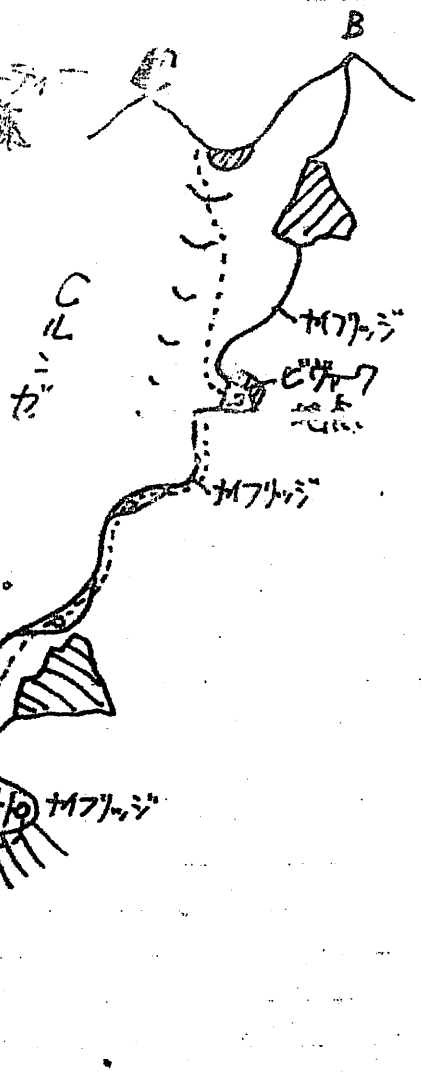
稜線

5:30

B.C 着

山角
Cルンゼから

あと2~3Pで抜けられる所であったが、
ガスがひどく、ルートがわかりにくいので
ビヴァークになりました。3人がせと座
れる位の岩かげにツェルトを張り寝る。
朝、雪がしまっている間にCルンゼをぬけて
稜線に出る。加藤にはかわいそうと思
いをさせてしまった。(松下)



5月3日 不帰三峰C尾根
Eパーティー (中村) 長谷川

5:15 BC ①) 唐松末を下る
7:50 P2基部 ① (10L or 20LにエボスルEをP2上部
8:20 P2上部 より取付く。
8:45 登ハニ開始 ②) SP
9:30 登ハニ終了 ②
10:00 三峰に2峰の2L ② 他ハニ一を待つ。
13:00 ホワイアウト) 唐松岳と三峰の2LでCパーティー
17:00 唐松小屋 ② ホワイアウト 出会う。ホワイアウトのフェルトアイン
17:30 TS ② ホワイアウト ティンク風難。

風雪のピクニック にならなかった。

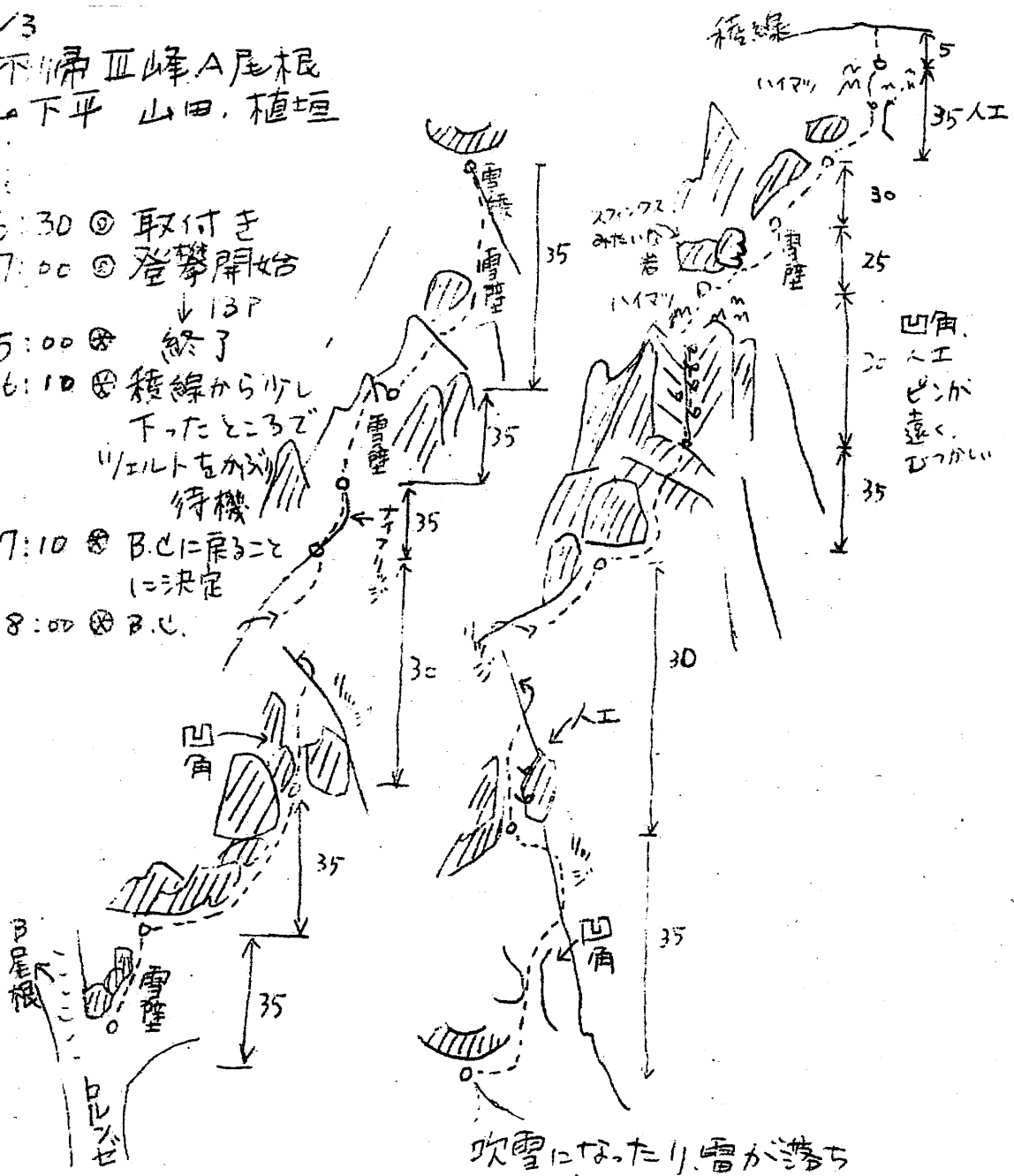
きょう、ママンが死んだ。もしかすると、昨日かも知れないが、私にはわからない。
神が怒っている。何で怒っているのだらう、変な奴。ゴールテンウイークだという
のに、しかも史上最大の9連休が世間一般であるのに、
集合場所には誰もこない。風がピューピューとまきりなしに吹きつづける。
ツェルトがはたはたしやがって煙草も燻すやしない。小便でもするかな。
おう、ホワイアウトだ。さきまは風だけだったのに、小便も命がけだ
な。気温は低くないようだ。ツェルトに当たる雪がとける。体の左側がじと
り湿ってきた。アアア... 仕方がないので春寂寥でも歌ってみる。とって
もせみしい。集合場所には誰もこない。不帰にきて帰らずって奴かな。
そして私たちは風雪のたたきつける中、ゆっくり、ゆっくりと歩き始めたのだ。
きっと昨日お刺にも太陽がまぶしかたにせいに違いない。

(まつなみ まりな)

5/3

不帰山A尾根 ↳下平 山田, 植垣

- 6:30 ◎ 取付き
- 7:00 ◎ 登攀開始
↓ 13P
- 15:00 ⊗ 終了
- 16:10 ⊗ 稜線から少し
下ったところまで
"1/2エルトをかき"
待機
- 17:10 ⊗ B.C.に帰ると
に決定
- 18:00 ⊗ B.C.



吹雪にふたり、雷が落ち
たりと、2も恐ろしい
登攀になった。

記、植垣

5/4 本隊

7:20 O 出発

7:40 O 八尾根 2300m 付近

その後、北側斜面で雪訓(クツセード)

11:20 O 雪訓終了

11:40 O B・C着

その後、スノーバー、ドットマンの使用講習をシ

B・Cを撤収、一山平隊を待つためしばらく待

機。

14:10 O 出発(八尾根下降)

15:40 O 兔平、ゴンドラ馬着

八方の下りはシリセードも自在に滑るばかりで

はやかった。

(山田)

装備からの反省

火器: 今回の合宿では小ガス4台と大ガス1台を持って行っ
たが失敗した。小ガスはガスの入る容量が少いため雪から
水を作りEssenをする時は途中でガス欠になり、してしまうこと
があり、朝の貴重な時間を無駄にしてしまった。新人合宿まで
にはアスを快調にしてやらなければならぬ。

設営具: ビニールシートはフライは強度に問題があった。また
フライに固定した張網もフルージャックで調整できるようにする
べきだった。

登攀具: 量は少ないにもかかわらず11mmφのダイヤルで短
のがあった。事前のチェックが甘かった。

消費量	ガス	5.12 / 10L	やく 93cc / 人・日
	メタ	82本 / 120本	20.5本 / 日
	ローソク	1.5 / 4本	0.2本 / 天・夜

残置装備 スノーバー 1本、シュリヤグ3、P>グレ1

② エッセンの反省

買い出しのときに買い足りないものが
つきつきと出てきて、準備に時間か
かかってしまい、すみません。

気付いた点としては

- ・レーションの量が少なかった。
- ・釜めしというのを取り入れてみたが、
もっとうまく作ればかなりおいしくなる
と思う。
- ・水を作るので、ジュースを持っていくと
良いと思う。
- ・シチューをうすいの中にマカロニを入れると、
ドリアのようになって、うまくなるのでは
ないか？
試してみよう価値あり。

植垣 健太郎

支出	交通費	63990	4446/人 (870/人)
	Essen費	62142	4143/人 (2071/人)
	装備費	16914	1128/人 (564/人)
	酒	2459	

合計 145505

収入 $10000 \times 14 + 4000 \times 2 = 148000$

残高 2495

合宿費 1人当り 9881円 (3587円)

・上記内は豊田・中村両名

G.Wの反省(個人)

今回の合宿は、1年間のしめくりであり、新人合宿の準備
だったと思う。自分の力不足のために合宿で満足いくもの
ではなかったが、新人合宿では自分の気合を入れてかん
はりたいて思う。

加藤

雪訓での技術の未熟・ゼルバニをわすれるなど反省
の多い山行であった。新2年生として今後の山行では必ず
はきしめ2のどみたひ。

長谷川

G.Wの反省

1日目に体調を崩したのがいけなかった。新人合宿ではぶざま
な思いをしたくないので、万全のコンディションでのぞむ。
また今回は冬合宿以上にシビアな天候の中、行動したがルートファイ
ンディングの力不足と雪崩に対する知識不足を感じた。

感想: 風がビュービュー吹きアツレがバシバシ降ってくる中、唐松
沢をつめて稜線に出たが、雪面を流れ落ちていくアツレの粒を見て
表層+ダレの恐怖にビビってしまった。雪の音も雪崩の音のよ
うでとんでもこわかった。

(河西)

一本しか登ることが出来ず残念だったが、吹雪の中での登攀ほど恐ろしくも貴重な体験が出来たと思う。ヒバークも覚悟していただけに、B.C.に居たときはホッとした。雪上技術など、まだ不十分だが、今後の手本となるように気合を入れて新人合宿にみたい。

植田 健太郎

登攀の日に、ホワイトアウトになって、雷雲もたちこみ、帰路が判然としなくなった。そのとき、私は、隊についていくだけの人間であった。マッピング、天候判断をいざというときのために、常時備えておく必要がある。この体験を、次のこのような状況に生かせるように、これからの山行に臨む。(兼岩)

今回の山行を通じて、又力不足を大いに感じてはいた。糸田がい事、例えば、エッセン、雪上技術に関しては、一応満足のいくものであったと思う。

しかし、3日の登はん終了間近に存てからの悪天候の中で自分がしてしまったこと、冷静な判断、余裕がなかったと思う。

そういうことを自覚する意味では非常に価値のある登はんをしたと思うが、これにさらに更に前進したい。

山田

体力・技術ともに不足していたため、1100mの足を引っばってしまった。

エビデンス中の重かったという事は力に
はると思う。

登山は面白がる。

小野孝博

去年も今年もGW合宿では、登攀の成果があがらなかった。天候、雪の
状態などを考えると仕方ないが、なしくなく物足りないものであった。
ただ今年は3日の日の悪天候などは、何故この時期にと思える程
予想している状況であった。3年生であり、これからリーガー部員に
なる僕は、本来、こんな時にこそ動けなければいけないのだが、
最後の方は、程よいルートファインディングなどは人まかせの形に
なってしまう。大変情けなく思った。これからは、総合的な判断力の
問われる学年なので、本当の意味でしかりせねばならない。

(三浦山)

去年は参加できなかったのが、今年はどんなものだろうと
思っていたが、雪の状態、天候の悪化など、コンディションが
整わなかったため、1本しか登れなかった。服部、加藤
の3人パーティで登ったが、ルートに3パーティも取り付
いており、登攀スピード、技術とも未熟であったため、抜
けきれずにワグワークになってしまった。来年から、この
状態が続くだろうと思われるので、トレーニングが必要で
あると思う。他に、一方にBCを置くとエスケープが困難
であったという欠点があり、問題点だったと思う。

松下

今回の合宿は計画段階から、北山から帰るのが
遅れてしまったためもあり、下平にまかせ、きりになった
し。大変思い残さない。今回、例年とは違い、一方
尾根にBCを設置して不帰集中を試みた訳だ
が多くの問題点を残すこととなった。しかし、五月
の吹雪やカミツリは、良い体験になった。2年
3年部員は、これから一年生が加わるといえる。今の
力やリーガ部員になるので、増えることは嬉しい。
又、最近特に、かっ落している雪稜技術は来年度の春
などは自ら入るといい。それにしても登れなくてつ
まらない合宿だった。

25

内田健一

又本も登れてとてもラッキーだった。雪がという
概念がや、とわがたよりの気がする。B尾根では
吹雪、雷、ヒバークとか降りシビリな場面に会
たが、それはそれでよい勉強になったと思う。

ハットリ

1/20にまたまたの不意な雪。登山は出来た。多くの時間を残
す余裕はな、こぼれた。しかし、厳しい条件の中で残ったという
経験は、たいへん貴重なものだ。みんな自分の力量を多く考え、新人の雨に何月まで、登山を
してほしい。一年生は会の指導員として、3年生は登山部員として
1/20の経験を、この人は、て下す。

下平

天気が悪くても生き残れるような
体力、精神力などが欲しいと思った。
(牧野)

今回は天気の悪い日に登攀となり、残念
だったが、1日のヒバークだけで次の日に体が
動けなくなってしまうたのびなせなかった。
精神的にもっと強くなるなくてはいい。

小久保

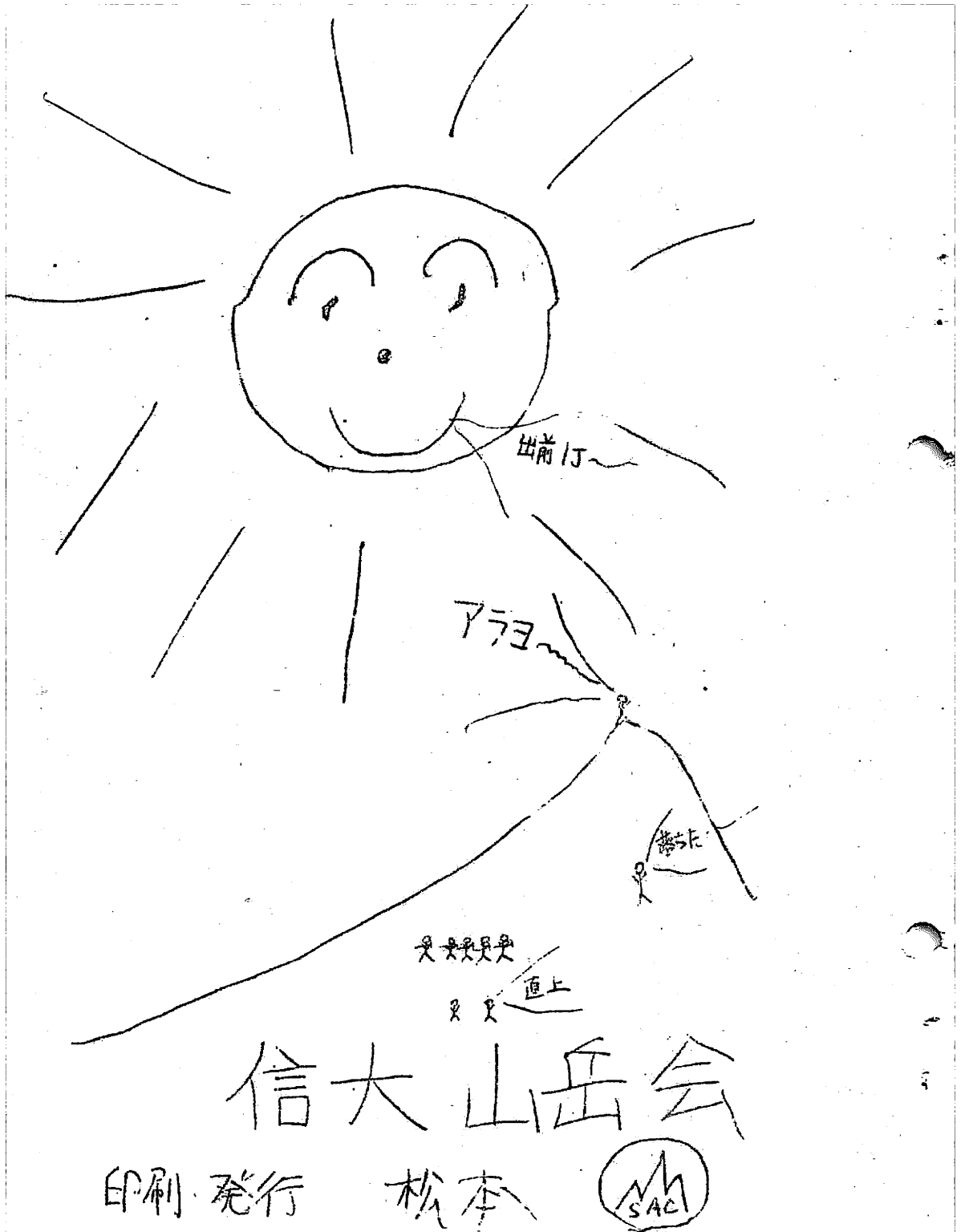
6ピッチあたりから降り始めた雪に、風が加わり、今では吹雪となっていた。

13ピッチを人工で越え、稜線に這いずり上がって、ザックをおろし、立ち上がった時突然、後頭部と背中全体に強い衝撃を受けて私は前のめりに倒れた。

ほんの2、3秒間、気を失っていたようだった。巨大な落石を受けたような感じだったが、

ここは稜線の上であり、落石を受けるはずはない。自分が雷に当たったのだと気付くまでに1分し時間がかかった。口の中で電気味がした。ふらふらと立ち上がった時、

2発目が私を襲った。よろめきながら私は言った。「こいつはヤバい。」あわてて身のまわりの金属類を外し伏せようとした時、いよいよ3発目だった。頭を横からはたかれるような感じだった。ミョーに体に力が入らず、フワフワした感じだった。後から落ちてきた山田といっしょに、セルフ・ビレイもとらず、7-セツの稜線にへばりついていて、(植垣)



出前

アヲ

登山

登山道

登山

信大山岳会

印刷発行 松本

